



## 水質日本一復活を目指して

水環境保全のために講習会を実施



水環境への理解を深めるため講習に臨む推進員ら

福島県や猪苗代湖・裏磐梯周辺の4市町村で組織する猪苗代湖および裏磐梯水環境保全対策推進協議会の推進員講習会は5月20日、町役場正庁で開催されました。

推進員は、地域住民による水環境保全のための自主的な取り組みを推進するため、生活排水対策などの啓発活動や猪苗代湖・裏磐梯湖沼群の巡回をしています。

猪苗代湖の水質日本一への振り返りを目指すとともに、美しい水と景観を次の世代へ引き継ぐためには、推進員の活動と皆さん一人一人の理解と協力が必要ですのでよろしくお願い致します。

## 磐梯山を「ジオパーク」に

町内小中学校にガイドブック寄贈



ガイドブックを寄贈する佐藤代表（中央右）と小松山副代表（右）

磐梯山をジオパークにする実行委員会（佐藤公代表）は4月20日、町役場を訪れ、「地元子どもたちに自分が住んでいる磐梯山エリアに興味を持ってもらいたい」と町内の小中学校や町に同委員会が作成した「磐梯山フィールドガイドブック」を寄贈しました。佐藤代表は、「世界ジオパークへの申請には行政も一体となった協議会の設立が不可欠。今年中の協議会設立を目指して活動していく。認定を目指す中で世界中のジオパークと交流していきたい。認定されれば海外からも観光客を呼び込める」と意気込みを語りました。

## 野口博士立像建設のために

博士の立像建設実行委員会に寄付



江花副委員長（左）に寄付を手渡す阿部相談役（右）

東京のCM制作会社、太陽企画株式会社の阿部正吉相談役は5月22日、町役場を訪れ、野口英世博士立像建設募金実行委員会の江花祥雄副委員長に寄付金30万円を手渡しました。

阿部さんは町内古城町の出身で、毎年購入する自分のスケジュール帳にも「志を得ざれば、再びこの地を踏まず」と書き込むほど、大の野口英世ファン。「野口英世博士は、自分が幼いころから目標であり、人生のお手本としてきた人物。立像建立の話聞き、ぜひ協力したいと思いました」と寄付の理由を述べました。

## 登山シーズンの到来を祝う

「宝の山」山開きに5,800人が参加



山頂から眼下に広がる大パノラマを楽しむ登山者ら

登山シーズンの到来を告げる磐梯山（1,819m）の第52回山開きは5月10日、現地で開催されました。

猪苗代登山口では関係者、登山客らが参加して安全祈願祭が執り行われ、今シーズンの登山客の無事故を祈願した後、一斉に登山を開始しました。風がやや強かったものの、好天に恵まれた今年初の山開きには、昨年を大きく上回る約5,800人が訪れました。

登山道にはまだ雪が多く残る場所もあり、登山客らは雪解け水でぬれた岩場や雪渓などに気をつけながら、思い思いのペースで山頂を目指しました。

## 有機の里 実現への第一歩

町食料自給率向上推進委員会発足



委員会の今後の活動などについて話し合う委員ら

町の資源である人や物、お金や情報などを町内で循環させる循環型地域社会の実現のため、町が進めている「有機の里構想」。

その一環として、地産地消の推進により食料自給率の向上を図る町食料自給率向上推進委員会が5月27日、町役場正庁で発足しました。

津金町長が18人の委員に委嘱状を交付した後、第1回の委員会が開かれ、会長に佐藤正商工会長、副会長にフレッシュいわはし会の渡部昭治会長が就任しました。今後は町の現状把握を進め、目標指標や具体的な施策などを検討していく予定です。

## 408年の時を超えて本町へ

南原猪苗代町婦人会が本町を訪問



土津神社を見学する南原猪苗代町婦人会の会員ら

山形県米沢市の南原猪苗代町婦人会（磯部せつ会長）の会員ら15人は5月17日、本町を訪れ、猪苗代地区区長会（本間昌儀会長）の会員やいなわしろ伝保人会のメンバー10人と交流を深めました。南原猪苗代町は、慶長6年（1601年）、上杉景勝の米沢藩転封とともに本町から米沢市へ移住した人々が住んだとされる地区。そのいわれを知った本間会長らの一行が昨年11月に同町を訪問してから交流が始まり、今回の訪問が実現しました。

両町のメンバーは「これからもこのつながりを大切にして、より活発な交流を続けていきたい」と話しました。